

平成30年度

八百津町 河川水質調査報告書

八百津町 水道環境課

平成31年3月

## 平成30年度河川水質調査報告

調査地点は、中山川 公民分館前水門 下流側、飯田川 中屋敷水管橋 上流側等  
16 地点で調査を行い、地点調査項目ごとの平均値と前年度との比較検討を行う。

調査日 1. 平成30年 4月 17日  
2. 平成30年 11月 8日

調査場所	NO, 1	荒川	荒川橋 歩道橋	上流側
	NO, 2	荒川	五宝滝駐車場前	頭首工
	NO, 3	南宮川	東橋	下流側
	NO, 4	油皆洞川	油皆洞橋 歩道橋	下流側
	NO, 5	杣沢川	東部農村センター下	農道橋 上流側
	NO, 6	天王川	大洞川合流点	橋梁 下流側
	NO, 7	辛沢川	稻荷前	橋梁 下流側
	NO, 8	中山川	公民分館前水門	下流側
	NO, 9	飯田川	中屋敷水管橋	上流側
	NO, 10	天王川	天王橋	上流約 20m
	NO, 11	石川	石川橋	下流側
	NO, 12	下田川	下田	農道橋 下流側
	NO, 13	祝谷	薄野	水門
	NO, 14	長曾川	追分橋	下流約 10m
	NO, 15	旅足川	水遊び場	下流約 10m
	NO, 16	名場居川	篠原	農道橋 下流側

### 1. 八百津町内の公共河川の環境基準

公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定の中で、八百津町の公共河川の環境基準値は、木曾川中流のA類型に該当します。

水 域	該 当 類 型
木 曾 川 上 流 (落合ダムより上流)	A A
木 曾 川 中 流 (落合ダムより犬山頭首工まで)	A
八 百 津 町 河 川	A

#### A類型の基準値

水素イオン濃度 (pH)	pH=6.5～pH=8.5
生物化学的酸素要求量 (BOD)	2 mg/L以下
浮遊物質 (SS)	25 mg/L以下
溶存酸素 (DO)	7.5 mg/L以上
大腸菌群数	1000MPN以下

等となっています。

- 調査項目
1. 水素イオン濃度 (pH)
  2. 生物化学的酸素要求量 (BOD)
  3. 化学的酸素要求量 (COD)
  4. 浮遊物質 (SS)
  5. 溶存酸素 (DO)
  6. 全窒素 (T-N)
  7. 全磷 (T-P)
  8. 大腸菌群数

### 3. 結果の評価

- 1) 年間（年2回）の各項目の平均値を算出し、基準項目が水域類型の環境基準に適合しているか否かの評価を行い、調査地点の該当類型を表にした。

水 域 類 型	調 査 場 所
AA類型	該当なし
A 類型	NO, 1 荒川 荒川橋 歩道橋 上流側 NO, 2 荒川 五宝滝駐車場前 頭首工 NO, 3 南宮川 東橋 下流側 NO, 4 油皆洞川 油皆洞橋 歩道橋 下流側 NO, 14 長曾川 追分橋 下流約 10m NO, 15 旅足川 水遊び場 下流約 10m
B 類型	NO, 5 柚沢川 東部農村センター下 農道橋 上流側 NO, 7 辛沢川 稲荷前 橋梁 下流側 NO, 16 名場居川 篠原 農道橋 下流側
C 類型	NO, 6 天王川 大洞川合流点 橋梁 下流側 NO, 8 中山川 公民分館前水門 下流側 NO, 9 飯田川 中屋敷水管橋 上流側 NO, 10 天王川 天王橋 上流約 20m NO, 11 石川 石川橋 下流側 NO, 12 下田川 下田 農道橋 下流側 NO, 13 祝谷 薄野 水門

2) 平成 29 年度より環境濃度が改善された河川

調 査 地 点	29 年度類型	30 年度類型
N0, 1 荒川 荒川橋 歩道橋 上流側	B	A

1 調査地点で河川水の環境濃度が改善されました。

3) 平成 29 年度より環境濃度が横ばいであった河川

調 査 地 点	29 年度類型	30 年度類型
N0, 2 荒川 五宝滝駐車場前 頭首工	A	A
N0, 3 南宮川 東橋 下流側	A	A
N0, 4 油皆洞川 油皆洞橋 歩道橋 下流側	A	A
N0, 5 杣沢川 東部農村センター下 農道橋 上流側	B	B
N0, 7 辛沢川 稻荷前 橋梁 下流側	B	B
N0, 8 中山川 公民分館前水門 下流側	C	C
N0, 9 飯田川 中屋敷水管橋 上流側	C	C
N0, 10 天王川 天王橋 上流約 20m	C	C
N0, 13 祝谷 薄野 水門	C	C
N0, 14 長曾川 追分橋 下流約 10m	A	A
N0, 15 旅足川 水遊び場 下流約 10m	A	A
N0, 16 名場居川 篠原 農道橋 下流側	B	B

12 調査地点で河川水の環境濃度に変化なし。

4) 平成 29 年度より環境汚染が進んでいる河川

調 査 地 点	29 年度類型	30 年度類型
N0, 6 天王川 大洞川合流点 橋梁 下流側	B	C
N0, 11 石川 石川橋 下流側	B	C
N0, 12 下田川 下田 農道橋 下流側	B	C

3 調査地点で河川水の環境汚染が進んでいた。

#### 4. 考察

1) A A類型の河川水域はありませんでした。

2) A類型の河川水域は6調査地点でした。

「NO, 1 荒川 荒川橋 歩道橋 上流側」は大腸菌群数の減少によりB類型からA類型に改善しました。

「NO, 2 荒川 五宝滝駐車場前 頭首工」、「NO, 3 南宮川 東橋 下流側」、「NO, 4 油皆洞川 油皆洞橋 歩道橋 下流側」、「NO, 14 長曾川 追分橋 下流約 10m」、「NO, 15 旅足川 水遊び場 下流約 10m」の5調査地点は昨年から変化はありませんでした。

3) B類型の河川水域は3調査地点でした。

「NO, 5 杣沢川 東部農村センター下 農道橋 上流側」、「NO, 7 辛沢川 稻荷前 橋梁 下流側」、「NO, 16 名場居川 篠原 農道橋 下流側」の3調査地点は昨年度から変化はありませんでした。

3調査地点とも大腸菌群数が改善されればA類型やA A類型になります。大腸菌群数は降雨量や天候の他に、生活排水等の混入が原因で増加します。

4) C類型の河川水域は7調査地点でした。

「NO, 8 中山川 公民分館前水門 下流側」、「NO, 9 飯田川 中屋敷水管橋 上流側」、「NO, 10 天王川 天王橋 上流約 20m」、「NO, 13 祝谷 薄野 水門」の4調査地点で、昨年度から変化はありませんでした。

「NO, 6 天王川 大洞川合流点 橋梁 下流側」、「NO, 11 石川 石川橋 下流側」、「NO, 12 下田川 下田 農道橋 下流側」の3調査地点で大腸菌群数の増加によりB類型からC類型に悪化しました。

7調査地点とも大腸菌群数が改善されればB類型、A類型、A A類型になります。

5) D類型の河川水域はありませんでした。

平成 30 年度の調査では、1 調査地点で環境濃度が改善され、12 調査地点で環境濃度の変化は見られませんでした。また、3 調査地点で環境濃度が悪化しました。

すべての調査地点とも大腸菌群数が減少すれば環境濃度が改善します。